

倍希釈液を計4回散布(300L/10a)したところ、散布後1~8日の最大残留量は0.40、0.09 ppmであった。ただし、これらの試験は、適用範囲内で行われていない。

⑳ピーマン

ピーマン(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布(200L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は1.18、1.28 ppmであった。

ピーマン(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布(80-230L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は以下のとおりであった。

アゾキシストロビン：0.78、0.84 ppm

代謝物B：<0.01、<0.01 ppm

㉑なす

なす(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布(300L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は以下のとおりであった。

アゾキシストロビン：0.26、0.58 ppm

代謝物D：<0.01、<0.01 ppm

代謝物F：0.02、0.02 ppm

代謝物L：<0.01、<0.01 ppm

代謝物M：0.01、0.02 ppm

㉒きゅうり

きゅうり(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの1000倍希釈液を1回株元灌注(100mL/株)及び1,500倍希釈液を計3回散布(150~300L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

アゾキシストロビン：0.20、0.48 ppm

代謝物D：<0.01、<0.01 ppm

代謝物F：<0.01、<0.01 ppm

代謝物L：<0.01、<0.01 ppm

代謝物M：<0.01、<0.01 ppm

きゅうり(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの1,500倍希釈液を計4回散布(200-300L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は以下のとおりであった。

アゾキシストロビン：0.28、0.28 ppm

代謝物B：<0.01、<0.01 ppm

③②かぼちゃ

かぼちゃ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（293.3～300L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は0.3、0.3 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③③すいか

すいか（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（168～300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

アゾキシストロビン：0.01、<0.01 ppm

代謝物D：<0.01、<0.01 ppm

代謝物F：<0.01、0.01 ppm

代謝物L：<0.01、<0.01 ppm

代謝物M：<0.01、0.01 ppm

③④メロン

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は以下のとおりであった。

アゾキシストロビン：<0.01、<0.01 ppm

代謝物D：<0.01、<0.01 ppm

代謝物F：<0.01、<0.01 ppm

代謝物L：<0.01、<0.01 ppm

代謝物M：<0.01、0.01 ppm

③⑤オクラ

オクラ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（180～250L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は1.22、1.06 ppmであった。

③⑥さやえんどう

さやえんどう（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.28、1.30 ppmであった。

③⑦みょうが

みょうが（花穂）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（3000L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.50、0.34 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③⑧ りんご

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計5回散布（500L/10a）したところ、散布後42日の最大の残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

アゾキシストロビン：0.98、0.14 ppm

代謝物D：0.04、<0.01 ppm

代謝物F：0.02、0.02 ppm

代謝物L：<0.01、<0.01 ppm

代謝物M：0.03、0.02 ppm

③⑨ 日本なし

日本なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計5回散布（500L/10a）したところ、散布後14～42日の最大残留量は以下のとおりであった。

アゾキシストロビン：0.60、0.36 ppm

代謝物D：0.04、0.03 ppm

代謝物F：0.02、0.01 ppm

代謝物L：<0.01、<0.01 ppm

代謝物M：0.04、0.02 ppm

日本なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計5回散布（500L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.68、0.35 ppmであった。

④⑩ もも

もも（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は<0.01、0.01 ppmであった。

もも（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は2.57、6.42 ppmであった。

④⑪ ネクタリン

ネクタリン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（400L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は0.5、1.4 ppmであった。

ネクタリン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（400L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

アゾキシストロビン：0.39、1.42 ppm

代謝物B : <0.01、<0.01 ppm

④すもも

すもも（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(300~400L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は0.12、0.09 ppmであった。

④おうとう

おうとう（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(300~400L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は1.30、0.47 ppmであった。

④いちご

いちご（果実）を用いた作物残留試験(1例)において、20%フロアブルの1,500~2,000倍希釈液を計5回散布(300L/10a)及び1,000倍希釈液を計3回土壌灌注(100mL/株)したところ、散布後1~7日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

アズキシストロビン : 1.20 ppm

代謝物D : <0.01 ppm

代謝物F : 0.03 ppm

代謝物L : <0.01 ppm

代謝物M : <0.01 ppm

いちご（果実）を用いた作物残留試験(1例)において、20%フロアブルの1,500~2,000倍希釈液を計8回散布(300L/10a)したところ、散布後1~8日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

アズキシストロビン : 1.18 ppm

代謝物D : 0.01 ppm

代謝物F : <0.01 ppm

代謝物L : <0.01 ppm

代謝物M : <0.01 ppm

④ぶどう

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの100倍希釈液を休眠期散布(300~500L/10a)及び1,000倍希釈液を計3回散布(500L/10a)したところ、散布後45~75日の最大残留量は以下のとおりであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

アズキシストロビン : 4.22、1.68 ppm

代謝物D : 0.03、0.05 ppm

代謝物F : 0.08、0.07 ppm  
代謝物L : 0.01、<0.01 ppm  
代謝物M : 0.03、0.03 ppm

④⑥かき

かき（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(300, 400L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.05、0.36 ppmであった。

④⑦パッションフルーツ

パッションフルーツ（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(300L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は0.33、0.30 ppmであった。

④⑧いちじく

いちじく（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(230~300L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は0.25、0.57 ppmであった。

④⑨茶

茶（荒茶）を用いた作物残留試験(4例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(200L/10a)したところ、散布後14~21日の最大残留量は4.75、2.62、0.80、3.46 ppmであった。

茶（浸出液）を用いた作物残留試験(4例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(200L/10a)したところ、散布後14~21日の最大残留量は2.50、1.34、0.42、1.28 ppmであった。

⑤⑩びわ

びわ（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(400L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.017、0.008 ppmであった。

⑤⑪うめ

うめ（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、10%フロアブルの1,500倍希釈液を計3回散布(250~300L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は0.6、0.7 ppmであった。

⑤⑫わけぎ

わけぎ（茎葉）を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布(150~400L/10a)したところ、散布後7~14日の最大残留

量は0.1、0.4 ppmであった。

⑤③あさつき

あさつき（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（150～200L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は1.5、0.8 ppmであった。

⑤④シソ

シソ（葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回株元散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.11、0.04 ppmであった。

⑤⑤せり

せり（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.7、0.8 ppmであった。

⑤⑥マンゴー

マンゴー（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計1回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.4、0.5 ppmであった。

⑤⑦クレソン

クレソン（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後21日の最大残留量は<0.20、0.26 ppmであった。

⑤⑧葉ごぼう

葉ごぼう（植物体全体）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計1回散布（200L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は2.2、1.6 ppmであった。

⑤⑨ホトケノザ

ホトケノザ（茎葉）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計1回散布（150L/10a）したところ、散布後30～60日の最大残留量は0.86 ppmであった。

⑥⑩ゴギョウ

ゴギョウ（茎葉）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計1回散布（150L/10a）したところ、散布後30～60日の最大残留量は

0.36 ppm であった。

⑥1 みずな

みずな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（265～391L/10a）したところ、散布後21日の最大残留量は0.4、2.4 ppm であった。

⑥2 ズッキーニ

ズッキーニ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（250L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.2、0.2 ppm であった。

⑥3 グアバ

グアバ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（139L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.03、0.08 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

⑥4 ピタヤ

ピタヤ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、10%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（188L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は1.38、0.26 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

⑥5 ねぎ

ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（70～300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は以下のとおりであった。

アゾキシストロビン：2.31、0.48 ppm

代謝物B：<0.01、<0.01 ppm

⑥6 サラダ菜

サラダ菜（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（150、200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は14.0、15.9 ppm であった。

⑥7 リーフレタス

リーフレタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（100～245L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は21.0、5.0 ppm であった。

⑥⑧セルリー

セルリー（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（200L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は9.36、6.1 ppmであった。

⑥⑨さやいんげん

さやいんげん（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布（150、200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.77、1.12 ppmであった。

⑦⑩未成熟そらまめ

未成熟そらまめ（豆）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布（250、286L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は<0.01、0.02 ppmであった。

⑦⑪葉たまねぎ

葉たまねぎ（葉及び鱗茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は2.19、1.11 ppmであった。

これらの試験結果の概要については、別紙1-1、海外で実施された作物残留試験成績の結果の概要については、別紙1-2を参照。

注1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を実施し、それぞれの試験から得られた残留量。

（参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に関する意見具申」）

注2) 経過日数13日の試験については、本来最大使用条件下として定められた14日の試験成績の誤差範囲内とみなし、当該試験成績を暴露評価の対象としている。

注3) 有効成分含量の表示値が変更になったため、17%アゾキシストロピフロアブル剤は18.2%アゾキシストロピフロアブル剤と同一製剤である。

## 7. 魚介類への推定残留量

本農薬については水系を通じた魚介類への残留が想定されることから、農林水産省から魚介類に関する個別の残留基準の設定について要請されている。このため、本農薬の水産動植物被害予測濃度<sup>注1)</sup>及び生物濃縮係数（BCF：Bioconcentration Factor）から、以下の通り魚介類中の推定残留量を算出した。

水産動植物被害予測濃度については、本農薬が水田及び水田以外のいずれの場面においても使用されることから、水田PECtier2<sup>注2)</sup>及び非水田PECtier1<sup>注3)</sup>について算出したところ、水田PECtier2は0.47ppb、非水田PECtier1は0.0049ppb

となったことから、水田 P E C tier2 の 0.47ppb を採用した。

また、BCFについては実測値がないため、オクタノール／水分配係数 ( $\log_{10}Pow : 2.5$ ) から、相関式 ( $\log_{10}BCF = 0.80\log_{10}Pow - 0.52$ ) を用いて算出した。

水産動植物被害予測濃度 : 0.47ppb、BCF : 30

$$\text{推定残留量} = 0.47\text{ppb} \times (30 \times 5) = 70.5\text{ppb} = 0.0705\text{ppm}$$

注 1) 農薬取締法第 3 条第 1 項第 6 号に基づく水産動植物の被害防止に係る農薬の登録保留基準設定における規定に準拠

注 2) 水田中や河川中での農薬の分解や土壌・底質への吸着、止水期間等を考慮して算出したもの。

注 3) 既定の地表流出率、ドリフト率で河川中に流入するものとして算出したもの。

(参考 : 平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金食品の安心・安全確保推進研究事業「食品中に残留する農薬等におけるリスク管理手法の精密化に関する研究」分担研究「魚介類への残留基準設定法」報告書)

## 8. 乳牛における残留試験

乳牛に対してアゾキシストロビン 0、5、25、75、250ppm を含有する濃厚飼料(20kg/day) を牧草と共に 27~30 日間にわたり摂食させ(それぞれ 0、100、500、1500、5000mg/頭/day に相当)、牛乳、皮下脂肪、腹腔内脂肪、胸筋、大腿部の内転筋、肝臓及び腎臓に含まれるアゾキシストロビン含量を測定したところ、下記のとおりであった。なお、牛乳については、投与開始後 1、3、5、7、12、14、17、21、26、29、30、31 日目に搾乳したものを測定した。(検出限界 : 牛乳 0.001ppm、牛乳以外 0.01ppm)

上記の結果に関連して、米国では肉牛、乳牛及び豚における最大理論的飼料由来負荷(MTD B)<sup>(注)</sup> はそれぞれ 74ppm、106ppm、10ppm と評価している。また、オーストラリアにおいては家畜への MTD B を 20.3ppm と評価している。

表. 組織中の最大残留 (ppm)

	5ppm 投与群	25ppm 投与群	75ppm 投与群	250ppm 投与群
大腿部内転筋	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
胸筋	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
肝臓	<0.01	0.01	0.05	0.07
腎臓	<0.01	<0.01	0.01	0.02
腹腔内脂肪	<0.01	<0.01	0.03	0.03
皮下脂肪	<0.01	<0.01	0.02	0.02
牛乳	0.003	0.006	0.004	0.009

注) 最大理論的飼料由来負荷 (Maximum Theoretical Dietary Burden : MTDB) : 飼料として用いられる全ての飼料品目に残留基準まで残留していると仮定した場合に、飼料の摂取によって畜産動物が暴露されうる最大量のこと。飼料中残留濃度として表示される。

(参考 : Residue Chemistry Test Guidelines OPPTS 860.1480 Meat/Milk/Poultry/Eggs)

## 9. 産卵鶏における残留試験

産卵鶏に対してアゾキシストロビン 0、6、18、60ppm (0、0.72、2.16、7.2mg/鶏/day) を含有する飼料を 28 日間にわたり摂食させ、筋肉、肝臓及び脂肪中のアゾキシストロビン含量を測定したところ最高投与群においていずれも<0.01ppm であった。また、鶏卵についても投与開始後 1、3、7、10、14、18、21、25、28 日に採卵し分析したところ、最高投与群においていずれも<0.01ppm であった。

上記の結果に関連して、米国ではMTDBは 7ppm として、オーストラリアでは 0.003ppm と評価している。

## 10. ADI の評価

食品安全基本法 (平成 15 年法律第 48 号) 第 24 条第 1 項第 1 号の規定に基づき、平成 19 年 10 月 2 日付厚生労働省発食安第 1002002 号により食品安全委員会あて意見を求めたアゾキシストロビンに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。

無毒性量 : 18.2 mg/kg 体重/day

(動物種) ラット

(投与方法) 混餌投与

(試験の種類) 慢性毒性/発がん性併合試験

(期間) 2年間

安全係数 : 100

ADI : 0.18 mg/kg 体重/day

## 11. 諸外国における状況

JMPR における毒性評価はなされておらず、国際基準も設定されていない。

米国、カナダ、欧州連合 (EU)、オーストラリア及びニュージーランドについて調査した結果、米国においてアスパラガス、大麦等に、オーストラリアにおいてアボカド、バナナ等に、ニュージーランドにおいて大豆、ぶどう等に、カナダにおいてぶどう、なたね等に及びEUにおいてラズベリー、にんじん等に基準値が設定されている。

## 12. 基準値案

### (1) 残留の規制対象

アゾキシストロビン本体

海外の作物残留試験においてメチル= (Z) -2- {2- [6- (2-シアノフェノキシ) ピリミジン-4-イルオキシ] フェニル} -3-メトキシアクリレート (以下、「Z体」という。)

が検出されており、米国等において Z 体も含めて規制を行っているが、海外の作物残留試験成績のうち大部分がアゾキシストロビンの 10%未満にとどまっていること及び国内の作物残留試験において Z 体について分析を行った試験（10 試験）においては、いずれも検出限界未満（0.01ppm）であることから、Z 体については規制対象として含めないこととする。

なお、食品安全委員会によって作成された農薬評価書においては、暴露評価対象物質としてアゾキシストロビンを設定している。

## (2) 基準値案

別紙 2 のとおりである。

## (3) 暴露評価

各食品について基準値案の上限まで又は作物残留試験成績等のデータから推定される量のアゾキシストロビンが残留していると仮定した場合、国民栄養調査結果に基づき試算される、1 日当たり摂取する農薬の量（理論最大摂取量(TMDI))のADIに対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙 3 参照。

なお、本暴露評価は、各食品分類において、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下におこなった。

	TMDI / ADI (%) <sup>注)</sup>
国民平均	27.2
幼小児 (1~6 歳)	51.8
妊婦	20.8
高齢者 (65 歳以上)	29.2

注) TMDI 試算は、基準値案×摂取量の総和として計算している。高齢者については畜水産物の摂取量データが、妊婦については水産物の摂取量データがそれぞれないため、国民平均の摂取量を参考とした。

アゾキシストロビン国内作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm)	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	【アゾキシストロビンのみ】
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 1.5%粒剤	50g/箱(箱施用) +4kg/10a 散布	4回	39, 41, 50日 35, 39, 46日	圃場A:<0.01(#)(4回、39日) 圃場B:<0.01(#)(4回、35日)
稲 (稲わら)	2	6%粒剤+ 1.5%粒剤	50g/箱(箱施用) +4kg/10a 散布	4回	39, 41, 50日 35, 39, 46日	圃場A:0.84(#)(4回、41日) 圃場B:0.99(#)(4回、35日)
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 0.6%粒剤	50g/箱(箱施用) +4kg/10a 散布	4回	14, 21, 28日 14, 21, 28日	圃場A:0.01(#)(4回、14日) 圃場B:0.02(#)(4回、14日)
稲 (稲わら)	2	6%粒剤+ 0.6%粒剤	50g/箱(箱施用) +4kg/10a 散布	4回	14, 21, 28日 14, 21, 28日	圃場A:1.14(#)(4回、14日) 圃場B:0.54(#)(4回、14日)
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 8%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 1,000倍散布 150L/10a	4回	13, 20, 27日 14, 21, 28日	圃場A:0.04(#)(4回、13日) 圃場B:0.02(#)(4回、28日)
稲 (稲わら)	2	6%粒剤+ 8%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 1,000倍散布 150L/10a	4回	13, 20, 27日 14, 21, 28日	圃場A:0.54(#)(4回、20日) 圃場B:0.94(#)(4回、14日)
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 8%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 1,000倍散布 150L/10a	4回	14日	圃場A:0.03(#) 圃場B:0.04(#)
稲 (稲わら)	2	6%粒剤+ 8%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 1,000倍散布 150L/10a	4回	14日	圃場A:0.52(#) 圃場B:0.94(#)
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 8%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 8倍無人ヘリ散布 800mL/10a	4回	14日	圃場A:<0.01(#) 圃場B:0.02(#)
稲 (稲わら)	2	6%粒剤+ 8%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 8倍無人ヘリ散布 800mL/10a	4回	14日	圃場A:0.64(#) 圃場B:1.64(#)
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 20%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 500倍散布 25L/10a	4回	14, 21日	圃場A:0.02(#)(4回、14日) 圃場B:0.02(#)(4回、21日)
稲 (稲わら)	2	6%粒剤+ 20%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 500倍散布 25L/10a	4回	14, 21日	圃場A:2.32(#)(4回、14日) 圃場B:1.07(#)(4回、14日)
小麦※ (種子)	2	20%フロアブル	原液 8mL/kg(種子処理) +800倍根雪前散布 100L/10a +2000倍散布 100L/10a	5回	7, 14, 21日	圃場A:0.02(#) 圃場B:0.10(#)
だいず (乾燥子実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200~250L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:0.02 圃場B:0.01
だいず (乾燥子実)	2	20%フロアブル	8倍無人ヘリ散布 800mL/10a	2回	21日	圃場A:<0.01(#) 圃場B:<0.01(#)
あずき (乾燥子実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 120L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:0.01 圃場B:0.01(3回、14日)
いんげんまめ (乾燥子実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150~300L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:<0.01(#) 圃場B:<0.01(#)
てんさい (根部)	2	20%フロアブル	1500倍散布 200L/10a	3回	14, 21, 30日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
てんさい (根部)	2	17%フロアブル	1000倍散布 150L/10a	3回	21, 30日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
てんさい (根部)	2	20%フロアブル	500倍土壌灌注 1L/冊 +1500倍散布 200L/10a	1+3回	14, 21日	圃場A:<0.01 圃場B:0.01(4回、21日)
だいこん (根部)	2	20%フロアブル	2000倍散布 107~250L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
だいこん (葉部)	2	20%フロアブル	2000倍散布 107~250L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:0.44 圃場B:0.14
かぶ※ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:2.36 圃場B:8.64
かぶ (根茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.02 圃場B:0.04(2回、14日)

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【アゾキシストロピンのみ】	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数		
はくさい (茎葉)	1	20%フロアブル	原液 8mL/kg (吹付コーティング) +2000倍散布 300L/10a	5回	7, 14, 21日	圃場A:0.10(＃)(5回、7日)	
はくさい (茎葉)	1	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:0.06	
キャベツ (葉球)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:0.08	圃場B:<0.01
キャベツ (葉球)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200-300L/10a	4回	7, 14日	圃場A:0.03	圃場B:0.03
こまつな (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 214~400L/10a	2回	21日	圃場A:<0.1	圃場B:2.5
大山そだち (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	2回	21日	圃場A:0.76	圃場B:2.19
サガミグリーン (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	2回	21日	圃場A:0.86	圃場B:0.92
しろな (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	1回	14日	圃場A:0.12	圃場B:2.34
畑わさび (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	2回	7, 14, 28日	圃場A:5.86	圃場B:11.8
畑わさび (根茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	2回	7, 14, 28日	圃場A:0.82(2回、14日)	圃場B:0.73
エンダイブ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	1回	21, 28, 35日	圃場A:<0.05	圃場B:1.18
レタス (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200~300L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:1.52	圃場B:2.94(4回、14日)
レタス (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍土壌灌注 3000L/10a+茎葉散布 200~300L/10a	4回	7, 14日 7, 13日	圃場A:2.4	圃場B:2.5
たまねぎ※ (鱗茎)	2	20%フロアブル	1500倍散布 200L/10a	4回	1, 7, 14日	圃場A:0.02(＃)(4回、1日)	圃場B:<0.01(＃)(4回、1日)
根深ねぎ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 180~300L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:0.96	圃場B:0.20
葉ねぎ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 180~300L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:1.42(4回、7日)	圃場B:1.20
にんにく (鱗茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300, 150L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:<0.01	圃場B:<0.01
にら (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150~200L/10a	2回	14日	圃場A:1.10	圃場B:2.42
アスパラガス※ (茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 250~300L/10a	4回	1, 3, 7日 1, 3, 6日	圃場A:0.83	圃場B:0.13
らっきょう (鱗茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A:0.02(3回、7日)	圃場B:0.02
にんじん※ (根部)	2	4.8%フロアブル	1000倍散布 200~400L/10a	2回	21, 28日	圃場A:0.02	圃場B:<0.01
パセリ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 250L/10a	1回	45, 60日	圃場A:0.05(1回、60日)	圃場B:0.33
みつば (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 100L/10a	1回	14, 21日	圃場A:1.6	圃場B:1.7
トマト※ (果実)	2	20%フロアブル	1500倍散布 300L/10a	4回	1, 3, 7日 1, 3, 8日	圃場A:0.40(＃)(4回、1日)	圃場B:0.09(＃)(4回、8日)
ピーマン (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:1.18	圃場B:1.28
ピーマン (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 80-230L/10a	4回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.78(4回、3日)	圃場B:0.84
なす (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:0.26	圃場B:0.58

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 【アゾキシストロピンのみ】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
きゅうり※ (果実)	2	20%フロアブル	1000倍株元灌注 100mL/株 +1500倍散布 150~300L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:0.20(＃)(4回、1日) 圃場B:0.48(＃)(4回、1日)
きゅうり※ (果実)	2	20%フロアブル	1500倍散布 200~300L/10a	4回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.28 圃場B:0.28
かぼちゃ (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 293.3~300L/10a	4回	1, 7, 14日	圃場A:0.3 圃場B:0.3
すいか (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 168~300L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:0.01(4回、7日) 圃場B:<0.01
メロン (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
オクラ (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 180~250L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A:1.22 圃場B:1.06
さやえんどう (さや)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.28(3回、3日) 圃場B:1.30
みょうが (花穂)	2	20%フロアブル	2000倍散布 3000L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:0.50(4回、3日)(＃) 圃場B:0.34(4回、3日)(＃)
りんご (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	5回	42日	圃場A:0.98(＃) 圃場B:0.14(＃)
日本なし (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	5回	14, 28, 42日	圃場A:0.60 圃場B:0.36
日本なし (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A:0.68 圃場B:0.35
もも (果肉)	2	10%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:<0.01 圃場B:0.01
もも (果皮)	2	10%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:2.57 圃場B:6.42(3回、3日)
ネクタリン※ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 400L/10a	3回	1, 3, 7日 1, 3, 7, 14日	圃場A:0.5(3回、3日) 圃場B:1.4
ネクタリン※ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 400L/10a	3回	1, 3, 7, 14日 1, 3, 7日	圃場A:0.39(3回、3日) 圃場B:1.42
すもも (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 300~400L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.12 圃場B:0.09
おうとう※ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A:1.30(3回、3日) 圃場B:0.47
いちご (果実)	1	20%フロアブル	1500~2000倍散布 300L/10a +1000倍土壌灌注 100mL/株	8回	1, 3, 7日	圃場A:1.20(＃)(8回、1日)
いちご (果実)	1	20%フロアブル	1500~2000倍散布 300L/10a	8回	1, 4, 8日	圃場A:1.18(＃)(8回、1日)
ぶどう※ (果実)	2	10%フロアブル	100倍休眠期散布 300~ 500L/10a+1000倍散布 500L/10a	4回	45, 60, 75日 45, 59, 75日	圃場A:4.22(＃)(4回、45日) 圃場B:1.68(＃)(4回、45日)
かき※ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 300, 400L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:0.05 圃場B:0.36
パッションフルーツ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 300L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.33 圃場B:0.30
いちじく (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 230~300L/10a	3回	1, 7, 14日	圃場A:0.25 圃場B:0.57
茶※ (荒茶)	4	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	3回	14, 21日	圃場A:4.75 圃場B:2.62 圃場C:0.80 圃場D:3.46

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	【アゾキシストロピンのみ】
茶 (浸出液)	4	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	3回	14, 21日	圃場A:2.50 圃場B:1.34 圃場C:0.42 圃場D:1.28
びわ※ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 400L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:0.017 圃場B:0.008
うめ (果実)	2	10%フロアブル	1500倍散布 250~300L/10a	3回	1, 7, 14日	圃場A:0.6(3回、7日) 圃場B:0.7
わけぎ※ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150~400L/10a	4回	7, 14日	圃場A:0.1 圃場B:0.4
あざつき (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150~200L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:1.5 圃場B:0.8
シソ (葉)	2	10%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A:0.10 圃場B:0.04
せり (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	4回	7, 14, 21日 7, 12, 20日	圃場A:0.7(4回、14日) 圃場B:0.8
マンゴー (果実)	2	10%フロアブル	100倍散布 200L/10a	1回	1, 3, 7日	圃場A:0.4 圃場B:0.5
クレソン (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150L/10a	3回	21日	圃場A:<0.20 圃場B:0.26
葉ごぼう (植物体全体)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	1回	21, 28日	圃場A:2.2 圃場B:1.6
ホトケノザ (茎葉)	1	20%フロアブル	2000倍散布 150L/10a	1回	30, 45, 60日	圃場A:0.86
ゴギョウ (茎葉)	1	20%フロアブル	2000倍散布 150L/10a	1回	30, 45, 60日	圃場A:0.36
みずな (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 265~391L/10a	2回	21日	圃場A:0.4 圃場B:2.4
ズッキーニ (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 250L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:0.2 圃場B:0.2
グアバ※ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 139L/10a	3回	14, 21日 7, 14, 21日	圃場A:0.03(＃)(3回、14日) 圃場B:0.08(＃)(3回、7日)
ピタヤ※ (果実)	2	10%フロアブル	100倍散布 188L/10a	3回	1, 7, 14日	圃場A:1.38(＃)(3回、1日) 圃場B:0.26(＃)(3回、1日)
ねぎ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 70~300L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:2.31 圃場B:0.48
サラダ菜 (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150, 200L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:14.0 圃場B:15.9
リーフレタス (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 100~245L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:21.0 圃場B:5.0
セルリー (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:9.36 圃場B:6.1(4回、7日)
さやいんげん (さや)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150, 200L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A:0.77 圃場B:1.12
未成熟そらまめ (豆)	2	20%フロアブル	2000倍散布 250, 286L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:<0.01 圃場B:0.02
葉たまねぎ (葉及び鱗茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A:2.19(3回、7日) 圃場B:1.11(3回、7日)

(＃) これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。

(※) 印で示した作物については、申請の範囲内で最高の値を示した括弧内に示す条件において得られた値を採用し、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付している。  
 なお、食品安全委員会農業専門調査会の農業評価書「アゾキシストロピン」に記載されている作物残留試験成績は、各試験条件における残留農薬の最高値及び各試験場、検査機関における最高値の平均値を示したものであり、上記の最大残留量の定義と異なっている。

## アゾキシストロビン海外作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
稲 (籾米)	7	80%顆粒水和剤	224g ai/ha 散布 +336g ai/ha 散布	2+1回	28日	圃場A:0.30 圃場B:2.7 圃場C:2.2 圃場D:0.41 圃場E:0.19 圃場F:0.27 圃場G:0.82
小麦 (穀粒)	5	フロアブル (250g ai/L)	250g ai/ha 散布	3回	40日 48日 48日 39日	圃場A:0.01 圃場B:0.03 圃場C:0.02 圃場D:0.02 圃場E:0.03
大麦 (穀粒)	3	フロアブル (250g ai/L)	250g ai/ha 散布	3回	38日 53日 55日	圃場A:0.23 圃場B:0.14 圃場C:0.07
とうもろこし (穀粒)	6	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	8回	7日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01 圃場C:<0.01 圃場D:0.02 圃場E:<0.01 圃場F:<0.01
大豆 (種子)	7	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	14日 15日 14日 16日 14日 14日	圃場A:0.04 圃場B:0.12 圃場C:0.12 圃場D:0.07 圃場E:0.06 圃場F:0.06 圃場G:0.02
らっかせい (種子)	9	80%顆粒水和剤	448g ai/ha 散布	2回	14日 14日 14日 14日 14日 20日 14日 14日	圃場A:<0.01 圃場B:0.01 圃場C:0.01 圃場D:0.12 圃場E:0.01 圃場F:<0.01 圃場G:<0.01 圃場H:0.06 圃場I:0.01
ばれいしょ (根茎)	4	フロアブル (250g ai/L)	1500g ai/ha 土壌混和	1回	108日 118日 95日 116日	圃場A:0.01 圃場B:0.01 圃場C:0.01 圃場D:0.01
ばれいしょ (根茎)	4	フロアブル (250g ai/L)	750g ai/ha 畝間散布	1回	108日 118日 95日 116日	圃場A:0.01 圃場B:0.02 圃場C:0.01 圃場D:0.03